

研究名称「バーチャルリアリティ（VR）教材の教育効果に関する研究」

1. 研究の対象

防衛医科大学校が代表を務める「研究名称「バーチャルリアリティ（VR）教材の教育効果に関する研究」について、すでに下記の教育訓練に参加し、VR教材を使用し、アンケート調査へご協力を頂いた方が対象です。また、ご協力いただいた方には全てこの研究参加への同意をいただいています。

※今回研究内容について、変更がありましたので改めてお知らせを致します。内容は下記のとおりです。

2. 研究目的・方法・期間

この研究の目的は、戦傷病対応や救急医療、看護教育といった場면을想定した教育訓練に際して、VR（Virtual Reality：仮想現実）技術を活用した場合の効果を検証することです。

戦傷病対応や救急医療の教育訓練は、実際の場面での実施が不可能または困難であることも多く、従来は状況を模した施設や人形等を用いて実施してきましたが、近年はVR技術を活用し、訓練施設や訓練人形では表現できない臨場感を提供して教育の効果を高めようという試みや、新型コロナウイルスの影響により対面実習が制限されたことから、その代替えとしてVR教材を活用する機会も増えています。しかし、その教育効果については未だ十分に明らかとはなっていません。この研究によって、VRを活用して行う様々な教育訓練について、教育効果に影響する要素を明らかとし、VRの活用に適した教育教材・教育方法の開発に役立てたいと考えています。

学校長承認後から令和6年3月31日までに実施する以下の教育訓練において、VR教材を使用した皆さんに、アンケート調査への協力をお願いします。調査に同意を頂いた方から個人を特定できない状態で回答を回収いたします。また、教育訓練の成果（実技試験結果、筆記試験結果、レポート等の成果物）が存在する教育訓練については、皆さまの同意が得られた場合に限り、個人を特定できない状態で成果を回収いたします。講習内容と回答者の属性（資格、経験年数）ごとに、知識・技術の向上、自信の醸成、教材の印象について被訓練者の回答と、指導者の回答を比較検討いたします。

この研究に参加を予定している訓練、又は研修対象とする教育訓練

ICLS 心肺蘇生講習

ICLS 心肺蘇生講習指導者養成講習

消防プロトコール研修会

外傷初期診療講習

第一線救護衛生員課程

陸上自衛隊救急救命士課程

海上自衛隊第一線救護衛生委員課程

海上自衛隊救急救命士課程

航空自衛隊航空機動衛生隊訓練

看護師現任者講習会

3. 研究に用いる試料・情報の種類

ご協力いただき、提出いただいたアンケートについて研究に利用します。ただしお名前は無い状態で研究に利用します。

4. 研究に用いる試料・情報の管理者

皆さんから同意書は頂きますが、アンケートとは切り離されており、だれのアンケートかわからないようになったものを研究に利用します。ただし同意書については、研究期間終了後終了後 5 年又は結果の発表後 3 年間は厳重に保管します。

5. 外部との試料・情報の授受

皆さんの同意書とアンケートは別々に集められ、防衛医科大学校へ送られます。

6. 研究組織

(1)研究責任者 所属 防衛医学講座 清住 哲郎

(2)共同研究機関

陸上自衛隊衛生学校 薬師寺恵美

自衛隊横須賀病院 小倉友美

航空機動衛生隊 田村 信介

埼玉西部消防局 目黒 雄太

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

連絡先 研究実施者

所属 防衛医科大学校 防衛医学講座

氏名 清住 哲郎

住所 所沢市並木 3-2

電話番号 04-2995-1211 (対応時間：平日 9時から 16時)

メールアドレス tkiyozumi@ndmc.ac.jp